



News letter

かもみーる通信

71号

2016年5月

CONTENTS

- * トップマネジメントセミナー
- * カモミール月曆
- * ランチタイム カモミール・カフェ
- * タメになるジェンダーのお話
- * ロールモデル講演会
- * 科学英語論文執筆セミナー
- * 保育園たより

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」



トップマネジメントセミナー

4月21日（木）岐阜大学講堂においてトップマネジメントセミナーを開催しました。

このセミナーは文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」の一環として、連携機関である岐阜薬科大学、岐阜女子大学、アピ株式会社と共同で開催されたものです。講師には文部科学省高等教育局企画官（併）高等教育企画課高等教育政策室長の伊藤史恵氏を迎え、「高等教育政策の動向について—女性研究者の活躍推進も視座に一」と題しての講演がおこなわれました。



文部科学省の現場で活躍する講師の伊藤氏による講演会には、岐阜大学の教職員をはじめ、連携機関から教職員や研究者、経営を担うトップマネージャーら約120人が参加しました。



森脇久隆岐阜大学長による開会の挨拶の後、伊藤氏は豊富な統計データを基に、高等

教育政策の現状、政策の中での女性研究者活躍推進事業の占める位置、岐阜大学に期待することなどを分かりやすく説明し、聴衆は熱心に聞き入っていました。聴講者からは「文部科学省の最新の政策動向を整理することができ、その中での岐阜大学の位置づけが明確になった」、「企業として参画する際、どのような貢献方法があるか具体的にご教示いただき、参考になった」などの感想が寄せられ、非常に有意義なセミナーとなりました。



カモミール月曆 (室長からのメッセージ)



副学長(多様性人材活力推進担当) 林 正子

前回の「カモミール月曆」でもお示しましたように、昨年2015年8月、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(女性活躍推進法)が成立し、301人以上の職員を雇用する事業主は、本年2016年4月1日までに、①女性の活躍状況の把握・課題分析 ②行動計画の策定・届出 ③情報公表 することが義務づけられました。

岐阜大学もその法律に則り、●採用者に占める女性比率 ●勤続年数の男女差 ●労働時間の状況 ●管理職に占める女性比率 の状況把握・課題分析をおこない、その結果を踏まえて「行動計画」を策定しました。

今回は、前回の本欄において紙幅の都合でご報告できなかった、「国立大学法人岐阜大学『女性の職業生活における活躍の推進に関する法律』に基づく行動計画」に反映している、女性教職員の現状(2014年度実績)と課題(一部)についてご紹介します。

採用した職員に占める女性職員の割合

教育職員	78名採用のうち20名	25.6%
事務系職員	3名採用のうち2名	66.7%
技術系職員	4名採用のうち1名	25.0%
医療系職員	97名採用のうち82名	84.5%
契約職員	229名採用のうち98名	42.8%
パート職員	701名採用のうち550名	78.5%
全体	1,112名採用のうち753名	67.7%

教育職員については、女性の採用比率が低く、全体の4分の1程度となっています。第3期中期目標に掲げている在職比率向上(2021年度までに21%以上)のためにも、まず採用比率を上げることが求められています。

注)契約職員及びパート職員の人数には、契約更新した者を含む。

管理職に占める女性労働者の割合

教職員で管理職手当を支給している者94名のうち、女性は6名(6.4%)。

6名のポストは、副学長、保健管理センター長、国際企画課長、監査室事務主幹、附属病院看護部長、附属小学校教頭となっています。

管理職員に占める女性の割合が1割にも満たない状況であり、女性職員が、出産・育児に従事しながらキャリア形成をしてゆくイメージや意欲を持つことが容易でないことが一因であると考えられます。

また、職場風土等に関する男女の意識に相違があることも見受けられることから、幹部職員に対して、女性職員の上位職登用への理解を深めることを目的とする意識啓発セミナー等を定期的開催するとともに、女性教員の研究力向上のための環境整備をより一層進めてゆく必要があります。

このような現状を踏まえ、昨年度以降、精力的に取り組んでおります文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」(2015年度~2020年度)の期間と重なる2021年3月31日までの今後5年間の計画期間として、「行動計画」には次の2点の目標を掲げています。(2016年3月24日役員会承認)

目標1. 女性教員の採用比率を向上させるとともに、在職比率を20.4%に向上させる。(現在の在職比率は、16.5%)

目標2. 女性教員の上位職比率を向上させる。【教授11.4%以上、准教授・講師18.9%以上】

(現在の上位職比率は、教授10.1%、准教授・講師14.2%)

目標1につきましては、

- 可能な範囲において、女性限定の採用公募を実施する。
- 育児・介護をおこなっている女性教員のための支援策について見直す。
- 学内保育園を充実させるなど、職場復帰しやすい環境を整備する。

目標2につきましては、

- 幹部職員に対して、女性の上位職登用への理解を深めることを目的とした意識啓発セミナーを定期的開催する。
- 女性教員の研究力を向上させるための環境を整備し、上位職への登用を目指す。

今後、このような取り組みを継続的に、全学を挙げて遂行することになっています。

構成員の皆様にも、岐阜大学の現状と課題、目標と取り組み内容につきまして、ご理解をいただきますとともに、それぞれのお立場で目標達成に向けてご協力くださいますよう、改めて、どうぞよろしくお願い申し上げます。



ロールモデル講演会



東京大学名誉教授・岡崎女子大学教授の白石さや氏を講師にお招きし、ロールモデル講演会を開催します。女性研究者のみならず、男性・学生の皆様も是非ご参加ください。



「私の生活を学問する」 — 子育てを研究に活かしながら —

講師：白石 さや 氏
(東京大学名誉教授・岡崎女子大学教授)

日時：5月27日（金）16：00～17：30

場所：岐阜大学柳戸会館 1階集会ホール

お問い合わせは、岐阜大学男女共同参画推進室までどうぞ。



無料託児所
予約制

科学英語論文執筆セミナー



5月27日（金）まで、男性・学生の応募も受け付けております（定員を超過した場合は女性優先）。ご希望の方はお早めにお申し込みください。

— 効果的な英語論文の書き方 —

日時：6月19日（日）・7月2日（土）9：00～12：00

場所：岐阜大学サテライトキャンパス 多目的講義室（中）

お問い合わせは、岐阜大学男女共同参画推進室までどうぞ。



ランチタイム カモミール・カフェ



サイエンス夢追い人育成プロジェクト
(女子大学院生による出前講義) 説明会

4月20日（水）の12:10～12:50に、今年度新規に登録を希望する女子大学院生を対象に、説明会をおこないました。去年実施した出前講義などを参考にいただき、講師として参加するモチベーションを高めてもらいました。

活動実績集ご希望の方は、男女共同参画推進室までお知らせください。➡





タメになるジェンダーのお話

その3

平成27年度ジェンダー関連授業「労働とジェンダー」から、不定期で掲載している「タメになるジェンダーのお話」。今回は、久々にその3をお届けします。

男女共同参画推進室特任助教 相原征代

前回は、理想の子ども数を持つことをためらう日本的理由（子育てにお金がかかりすぎる）について説明しましたが、今回はフランスを紹介したいと思います。ちょっと記事の趣旨は違いますが、「最初の子どもを持つ前と持った後だと、希望する子ども数に違いが出る」という記事で、最初の子どもを持つと、当初望んでいた子ども数よりも希望する子どもの数の方が下がる理由として「年を取りすぎたから（33%）」「家が狭すぎる（28%）」「子どもの教育に費用がかかる（28%）」「仕事と家庭の両立が困難（22%）」という結果が出ていました。

(<http://www.20minutes.fr/societe/1297566-20140212-20140212-nombre-enfants-souhaite-varie-avant-apres-premiere-naissance>を参照。)

直接の比較にはなりません、この記事の結果から推測しても、日本ほど「子どもにお金がかかる」という問題意識はないように思います。ちなみに、子どもを育てる費用の日仏比較においては、家族関連社会支出の対GDP比がフランスでは3.2%（2009年）、日本はたったの1.35%（2011年）だということも考慮に入れるべきです。しかも日本の調査では、「妻が50歳未満の初婚の夫婦」が対象ですが、フランスでは、すでに新生児の半数以上が「婚外子」、つまり「正式な結婚をしていない夫婦から生まれて」おり、合計特殊出生率は2.0%前後（日本は1.4%前後を推移）です。少子化社会に本当に効果的な対策を講じたいのならば、私たちがフランスのように、「理想」ばかりを追い求めるのをやめてみてはどうでしょうか。

（次回に続く）



保育園たより



紙面の都合上、先月号に掲載できませんでした卒園式の模様をご紹介します。

平成27年度は3名の園児を送り出すことができました。

子ども達は両親に向け「ありがとう」の気持ちや、お世話になった先生方ひとりひとりに感謝を伝えて、和やかな式となりました。

